

# 安全な楽しい海水浴のために！！

小田原市立病院 救命救急センター長  
守田 誠司

飲酒後の海水浴は非常に危険であり、死亡事故などの悲劇的な結果を引き起こすことも少なくありません。海上保安庁では、飲酒後の海水浴（水泳）を「酔泳」とし、その危険性の啓発活動を強化しています。しかし、毎年のように「酔泳」による致命的な事故が起っています。

近年、一部の海水浴場では飲酒を禁止している場所もありますが、海水浴場の経済面や集客面などから日本の多くの海水浴場では飲酒が可能であるのも現状です。本来、海水浴は楽しくて、安全かつ健全でなければいけません。過去の事故を見てみると、多くの事故は一定のルールを守らない場合に起っています。具体的には、「遊泳禁止の海で泳いでしまう」、「遊泳時間外に泳いでしまう」、そして今回強調したい「飲酒後に泳いでしまう」など、ルールさえ守っていれば事故に遭うことはなかったケースが多いのです。

楽しい海水浴は、最低限のルールさえ守れば悲しい事故は未然に防ぐことができます。実際にニュースにはならないような海水浴に関連した事故はたくさんあります。あなたは、海水浴のために命を捨てますか？ そんな人はいないはずです。楽しくて、かつ安全で安心な海水浴のために、最低限のルールは必要です。ここでは、私が医師として経験した海水浴事故を提示し、何が問題であったのかをお話します。

## (ケース1) 2名が溺水、緊急入院、集中治療等

8月某日 快晴 遊泳可 最高気温 36度 大学のサークル仲間 5人で海水浴へ。午前10時頃から海岸でビールを1-2本呑んだ後に、5人で海へ。最初は浅瀬で遊んでいたが、1人(Aさん)が沖に向けて泳ぎだしたため、残りの4人(B、C、D、Eさん)も沖に向けて泳ぎ始めた。海岸より20m程度の場所で、1人(Bさん)が泳げなくなり溺れ始めた。仲間は気が付かず沖に向けて泳ぎ続けていた。途中で溺れていることに気が付いた仲間1人(Cさん)が助けに向かったが、Bさんに掴まれたCさんも溺れてしまった。

監視中のライフガードが発見し、2人を救出したが、かなりの海水を飲んでおり、呼吸状態が異常であると判断し、救急車を要請して当院に搬送された。Bさんは、多くの海水を誤嚥(肺に海水が入ってしまうこと)しており、体内の酸素が低下していたため、呼吸器を使用して集中治療室で治療を開始した。Cさんも同様に肺に海水が入っていたが、酸素吸入で緊急入院となった。最終的には、Bさんは12日の入院後に退院、Cさんも4日の入院が必要となった。

(解説)

海水浴場では非常に気温が高く、予想以上に汗をかいています。その状況で、飲酒をすると、血中アルコール濃度は通常時より上昇する可能性があり、思った以上に酔いは回っています。この状態で泳いだらどうでしょうか？当然ですが、危険！の一言に尽きます。今回のケースは2人とも一命はとりとめました。ライフセーバーの発見が遅ければ死に至っていてもおかしくないケースでした。いかに飲酒後の遊泳が危険であるか分かります。飲酒後の海水浴で死んでしまっても誰も同情してくれません。お酒を飲むのであれば、楽しい海水浴の後にお酒を飲んでください。

### (ケース2) 飲酒の上での夜間遊泳で溺水、集中治療、36日間も入院

8月某日 午後10時 友人3人(A、B、Cさん)で居酒屋で飲酒をした後に、花火をしようと海岸へ。海岸で缶酎ハイを飲みながら花火を楽しんでいた。その後みんなで波打ち際で遊び始めたが、Aさんが洋服を着たまま暗い海で泳ぎ始めた。BさんもCさんも連れられて海で泳ぎ始めた。Aさんが見当たらないと警察に電話をし、警察から消防に連絡が入った。レスキュー隊と救急隊が到着時にAさんが波打ち際で倒れているところを発見し、ただちに当院に搬送となった。海水を多量にのみ溺水したと考えられた。ただちに呼吸器管理とし集中治療を行った。何度も肺炎を繰り返したが、最終的には入院36日で退院となった。

(解説)

時間外、特に夜間の海水浴は危険です！夜間の「酔泳」はもってのほかです。今回提示したケースはたまたま助かりましたが、死亡事故につながることも多いです。海水浴は楽しむためのもので、危険なものではありません。海水浴場でお酒を飲んで泳ぐのも危険ですが、飲んでから海に来て泳ぐのも同じように危険です。

### <まとめ>

多くの人は、そんな危険なことしないよ！と思うかもしれませんが、実際に起こっている事故です。多くの人はわかっているけど、酔いに任せてしまうのです。危険な海水浴は悲劇的な結果になってしまいます。海水浴＝楽しいであって、海水浴＝危険ではありません。最低限のルールを守って、事故のない、健全で楽しい海水浴を心掛けてください。